平成 24 年 7 月 20 日 金曜日

奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター　*Nara IDSC*
（奈良県保健環境研究センター内）

今週の概要

今週の感染症情報

（調査週）平成 24 年　第２８週　７月９日（月）～7 月 15 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況　（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾　患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	2.46	→～↓	→～↓	↓	→
2	ヘルパンギーナ	1.86	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
3	A 群溶連菌咽頭炎	0.80	→～↓	↓	→～↓	→～↓
4	水痘	0.57	→～↓	→	↓	↓
4	突発性発しん	0.57	↑	↑	→～↑	↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況　報告数は123例で、前週報告の113例からやや増加。上位５疾患は、①ヘルパンギーナ、②感染性胃腸炎、③水痘、④A群溶連菌咽頭炎＝突発性発しんの順となり、ヘルパンギーナが感染性胃腸炎に入れ代わって第１位となった。ヘルパンギーナの報告数（23→39例）は、増加。水痘の報告数（15例）は、減少。感染性胃腸炎の報告数（36例）は、ほぼ横ばい。突発性発しんの報告数（8例）は、やや増加。A群溶連菌咽頭炎の報告数（8例）は、やや減少。奈良市HC管内眼科定点から、流行性角結膜炎が1例報告された。また、奈良市HC管内基幹定点からの無菌性髄膜炎の報告が1例（10～14歳児）と、郡山HC管内基幹定点からの細菌性髄膜炎の報告が1例（60～64歳症例）、それぞれあった。　（村井　記）

県北部外来状況　外来患者数は減少している。ほとんどが突然の高熱が1～2日間、咽頭痛、頭痛、嘔気のいわゆる夏風邪で、ヘルパンギーナはみられるが、手足口病はほとんどない。水痘と流行性耳下腺炎はやや増加してきた。感染性胃腸炎は細菌性が少しあるが、ほとんど無くなった。

（矢追　記）

県中部地区概況　報告数は、137 例から 107 例と減少した。上位 5 疾患は、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、A 群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱、突発性発疹の順であった。感染性胃腸炎は、64 例から 40 例と減少し、ヘルパンギーナは 11 例から 18 例と著明に増加している。基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎 1 例（1～4 才）の報告が、葛城保健所よりあった。眼科定点からの報告はなかった。

（高木　記）

県中部外来状況　外来数は少ない。短期の発熱の夏風邪が主。軽症のヘルパンギーナが僅かに出てきた。典型例はまだ少ない。手足口病はまだない。感染性胃腸炎も減少傾向で嘔吐を主とする例が少し。調査情報ではまだインフルエンザ、ロタが検出されている様であるが（6 月）疑われる例はなかった。

（岡本　記）

県南部地区概況　報告数（第 27 週→第 28 週）は 22 例→29 例と推移。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（11 例→10 例）、②ヘルパンギーナ（3 例→8 例）、③突発性発疹（2 例→4 例）、④A 群溶連菌咽頭炎（3 例→3 例）、⑤咽頭結膜熱（0 例→2 例）、⑥水痘（3 例→1 例）、⑥流行性耳下腺炎（0 例→1 例）であった。

（柳生　記）

県南部外来状況　外来数はあまり多くない。発熱と軽い頭痛などの夏風邪がやや増加した他、ヘルパンギーナが少し流行し始めた。手足口病は見られず。感染性胃腸炎も少ない。細菌性のものもあまり見られず。A 群溶蓮菌咽頭炎、水痘も少なくなった。その後マイコプラズマ感染症疑い例の増加もない。

（山本　記）

これらの内容は以下のホームページで
さらに詳しくご覧いただけます
http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm